



思茅歌舞団との合同公演 雲南省思茅市・紅旗会堂にて

2007年のアジア民族舞踊交流

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

昨年当財団は、設立20周年を迎えました。故黛節子先生の民族舞踊に対する熱烈なる愛情、御意思が、何程かは実現できているとは思いますが、果して天上の黛先生は、どのように考えておられるでしょうか。我々は、今年もなお一層努力を重ね、先生の御意志の実現につとめたいと存じます。

昨今もアジアの各地で災害など困った状況も生じていますが、大局的に見れば、アジアは経済・文化発展の途をたどっていると思います。アジアの発展が、単に物質的繁栄にとどまることなく、民族の心を育む、文化興隆の途へと展開することを心より願いたします。

昨年は当舞踊団の団員たちが第九次訪中団として訪中し、交流いたしました。その様子は本誌の次頁以下に報告されている通りです。今年は7月に中国雲南省怒江州歌舞団が、また尹徳卿（ユンドックキョン）舞踊団が韓国から来日され、黛民族舞踊文化財団を加えて三者の交流が行われます。年をとって中国や韓国への旅行が不如意になった私ですが東京で両国の歌舞のすばらしさに接することができるのを心から楽しみにしています。また来日される皆様の日本での日々が有意義であるとともに楽しいものでありますことを、心より期待しております。

黛民族舞踊文化財団第9次訪中団日中舞踊交流会

2006年4月24日～5月2日

訪問先：中国雲南省新平県、思茅市、景洪市、昆明市

訪中団メンバー

団長	大野 晃
団員	黛 琉美
	黛 今日子
	黛 莉香
	黛 真也
	伊藤 みつ子
	花柳 志保乃
	花柳 翁麗
	藤間 勘加紅
	野上 まさ子
	藤原 明人



シーサンパンナにて

- | | | | |
|----------|---|----------|-----------------------------------|
| 4月24日（月） | 広州経由で昆明着。 | 4月28日（金） | 中国茶文化名人園見学。夜は思茅歌舞団と紅旗会堂で合同公演。思茅泊。 |
| 4月25日（火） | バス、玉溪経由で新平県へ。南碱民族文化生態村。花腰タイ族博物館見学の後、花腰タイ族と民族舞踊交流。 | 4月29日（土） | 思茅から昆明へ。昆明泊。 |
| 4月26日（水） | バスで思茅へ。思茅泊。 | 4月30日（日） | 財団が今まで招請した来日経験者との懇談会。昆明泊。 |
| 4月27日（木） | シーサンパンナへ。景洪市内見学の後岩幸先生（タイ族、1985年訪日）のお宅を訪問。夜は民族舞踊ショー見学。思茅泊。 | 5月1日（月） | 雲南大学人類学博物館見学。昆明泊。 |
| | | 5月2日（火） | 広州経由で帰国 |

交流会日記

- | | | |
|---|-------|--|
| 4月24日（月） | 19:25 | 昆明着。真っ赤な夕陽が沈もうとする時刻、無事着陸。張先生、鄧先生、陶先生、聶さんの出迎えを受ける。 |
| 8:00 成田空港集合 | 20:00 | 空港発。橋香園にて雲南名物シャブシャブの夕食。 |
| 10:20 JAL0603 便にて | 21:00 | ホテル連雲賓館着。一昨年、怒江でお世話になった段先生、現在は文連の副主席ということで昆明在住との事。 |
| 14:00 暑い広州着 | | |
| 中国国内線のチェックインで、入国に必要な書類手続きや手荷物のオーバー料金の問題で手間取り、待ち時間なしに次の国内線に乗り込む。 | | |
| 17:00 中国東方航空 MU5736。 | | |

4月25日(火)

9:00 出発。昆明の標高は 1980m。今年はほとんど雨が降らず乾燥しているとの事。雲南省の人口は 4300 万人、昆明市の人口は 380 万人。朝夕の渋滞が深刻である。

高速道路を東南へ。その先はベトナムまで続いているという。

途中、おびただしい数のビニールハウスが見える。以前は野菜を作っていたが、今では花の栽培が盛んである。

10:50 玉溪着。南国的でブーゲンビリアの花が鮮やか。玉溪賓館に車を止め、玉溪の先生方と街を歩いて聶耳の故居へ。ベゴニアが吊るされている歩道を歩く。

聶耳は玉溪出身で中国国歌の作曲者。聶耳(1912-1935)の生家の一部を増築して作られ、ここには様々な資料が展示されている。聶耳は日本の藤沢市で亡くなったことから玉溪と藤沢は姉妹都市となった。

12:20 玉溪賓館にて昼食。

13:50 出発。今日から三日間フェスティバルのため街の中を民族衣装を着た人が歩いている。再び高速道路を走る。水牛、山羊を見かける。田植えを終えたところ。

15:20 新平の街(標高 1200m)は、両側にブーゲンビリアや街路樹の花も美しく、整備された直線道路が町を貫いている。

16:30 南碱民族文化生態村に到着。大型バスでは入れない道を下り花腰タイ族の村で車を降りる。民族衣装をまとった村人たちや雲南大学教授の尹紹亭先生に迎えられ、歓迎の儀式に臨む。この儀式は二人の村人が色あざやかな糸を長方形に張り、その中に旅人を招き入れてから糸を上から下へおろす。旅人はその糸をまたいで一歩後退し、その動作をもう一度繰り返す。そして三度目によりやく前に進むことができる。山の中を長いこと歩いてき



聶耳の故居にて



南碱民族文化生態村の花腰タイ族の歓迎式

た旅人には悪霊がとりついていているかもしれないので、こうやって悪いものを落とすのだそうである。そして「幸せが訪れますように」とおまじないをつぶやきながら手首に赤い糸を巻いてくれる。

村に入り、まず花腰タイ族博物館を見学。開館してから2年もたっていない。民族衣装や生活道具・子供のおもちゃなどが展示されている。日本のものと酷似した扇もある。黛節子先生の写真も飾られていた。スイカをごちそうになりながら、今夜の出し物の打合せ、さっそくリハーサルと思いきや先にみやげ物を買ってほしいといわれ、その提案に従う。

18:30 舞台は博物館前の広場である。コンクリートと石でつくられているので、出来る限りゾウリをぬいで踊ることになった。

楽屋から舞台に行くまでに観客から見切れてしまう。楽屋は博物館の中、といっても床は土間だ。大きなビニールを敷いてもらってそこで衣裳をかえる。

20:50 アヒルの鳴き声ばかり聞こえて心配したが、村人も集まり、広場を二重、三重にとりまいていた。

ややこ踊り、会津磐梯山、ソーラン節、貫花、黒島口説。黒島口説は動作の意味がわかるのでさかんに笑い声がおこる。終了後、現地の踊りを輪になって一緒に踊る。

22:00 終演。片付けて軽い食事。女の子は別れの歌をうたってくれて、村人と車に乗り、広場では村人が輪になって踊り続けていた。

23:10 出発、満天の星空。新平に戻る。

0:20 金茂大飯店着。

4月26日(水)

9:50 集合。今朝はゆっくり出発。

快適な高速道路。途中世界一（川からの高さ）高い橋があって、車窓には茶畑が目立つ。途中昼食を取れる店がなかなか見つからなかったが、張先生の努力でどうやら店らしい店に落ち着く。雲南の食事はどこで食べてもおいしい。

15:00 出発。道はあまりよくない。普洱県通過。普洱茶の看板を掲げた店が軒を連ねている。バナナを積んだトラックともよくすれ違う。

16:30 思茅盆地が見えてくる。思茅は人口 200 万人の都市。

17:00 金鳳大酒店着。李先生の出迎えを受ける。

18:00 滇石南財政幹部培訓センターにて夕食。思茅市の招待。羅先生。

思茅市歌舞団茶芸庁へ移動。

歌舞団のメンバーによるタイ族、ラフ族、ワ族の歌や踊りを鑑賞しながら普洱茶、ラフ族のお茶、ワ族のお茶をたのしむ。構成・演出は昨年来日している李先生。密林の中のような内装もすばらしい。

最後は団員の手ほどきを受けてバンブーダンスの輪踊り。

22:15 ホテルへ

4月27日（木）

9:30 シーサンパンナに向けて出発。

聶さんの中国語講座が始まる。挨拶と買い物で使うフレーズをいくつか皆元気に復唱する。

4月6日に開通したばかりの高速道路へ。

将来はバンコクまでつながる予定とか。両側の山は茶畑。バナナ畑もある。運が良ければ野生動物が通るのを見られるそう。今回は残念。

11:00 観象台にて休憩。象が通るのを見られるかも。まだ整備中のサービスエリア。象とは会えず。

12:00 景洪着。瀾滄江（メコン河）を渡り市街へ。ラオス国境も近い。椰子の並木、タイの寺院風の建築など、南国の雰囲気。

12:15 仏光園にて昼食。ハイビスカスがゆれ、東屋風のはなれにシーサンパンナの先生方が集まる。紫米や、年に一度の祭りの時つくる竹の皮で包んだもち米のお菓子などが珍しい。黛先生と水かけ祭に参加して水をかけられた思い出がなつかしい。

14:00 曼听公園 とても暑い。

民族舞踊のショーが行われていたが、ちょうど終わってしまい、大野先生は地元紙の取材を受ける。



中国茶文化名人園にて

15:20 岩宰先生宅。象脚鼓を打ちながら踊ってくださる。先生はここ2年ほどはプーラン族の研究を続けていらっしゃるそう。先生の作曲なさった『シーサンパンナの日』など、たくさんの作品をきかせてくださる。日も傾き、暑さも和らいできた。

歌舞団の稽古場も見せていただく。舞台装置までしっかり組める舞台がついた鏡張りの広いフロア。恵まれた環境だ。

18:00 傣家美食園 メコン川のほとりのレストラン。ステージがあり、民族舞踊ショーを観ながらの食事、昨年来日の岩さんと鄭さんも飛び入りで踊ってくださる。食事の後、他の客たちと共に輪おどり。タイ族の踊りは比較的ゆったりしていると思ったが、円の中心に集まったり広がったり、興が乗ってくるとやはりはげしくなる。元々は集まった時お互いの足をふみ合ったりしてたのしんだそう。

19:50 出発

22:00 思茅ホテル到着。



シーサンパンナの岩宰さん夫妻

4月28日(金)

9:30 集合。文連副主席李さん。

9:45 中国茶文化名人園

紅樓夢、曹雪芹、チベットにはお茶を広めた文成公主など、お茶に縁の深い人物の像が配された庭園を散策。歌声が聞こえたのでてっきりテープかと思ったら女性がいい声で歌っていた。

10:20 梅子湖展望台、ほぼ360度見わたせる。山の斜面全体が茶畑。その向こうに思茅の街が広がる。

まわりの山々には霧がかかり、水墨画の世界。

10:50 雲南思茅康堤茶業暨資源開発有限責任公司。思茅は中国茶城(お茶のふるさと)と呼ばれ、中国で一番古いお茶の歴史を誇る。そんなこの地域のお茶と歌と踊りをたのしみつつ味わう。

まずプーアル茶は宋代、明清代、現代の3つの時代の茶で出され、そしてもち米と生姜の風味が良いラフ族のお茶、大きい葉を使い、苦めのワ族のお茶、上等なウーロン茶、プーアル茶。大野先生がワ族の花婿に扮して結婚式を挙げるという演出もあり、文連主席李さんは、「昨夜はかなりまとまった雨が降っていたが正月以来まだ3回しか雨が降らず、憂慮していたが、みなさんが東京から雨を連れてきてくれました」と、よろこばれた。

街の中に諸葛孔明の大きな銅像が立っている。この地に遠征した折体調を崩した兵士たちがお茶を飲むことで元気を取りもどしたことに注目した孔明はお茶がくすりになるのではと考え、研究、改良を指導したのだそう。雲南は90%が赤土。この酸性の土はいいプーアル茶を育てる。象の彫刻もある思茅には実際に象がスイカやトウモロコシを食べにくるそう。

12:20 アイニー山荘 昼食。カエル、川にいる虫などが出された地区。

14:00 ホテルに戻り準備。

15:40 紅旗会堂へ、リハーサル。

楽屋から外を見ると野外ステージがあり、韓国のドラマの主題歌に合わせて踊っている人たちが見える。あちこちで盛んに催しが行われていること、中国でも韓流がブームらしいことに感心する。

20:10 本番、思茅市歌舞団との合同公演(ややこ踊り、津軽あいや節、会津磐梯山、黒田節、ソーラン節、越中おわら、貫花、黒島口説)

22:30 ホテルへ戻り、歌舞団の皆さんと打ち上げ。

海外の舞踊団との合同公演は初めてであるとのこと。われわれも今訪中最後のステージ。双方興奮気味。

4月29日(土)

12:35 昼食 ドライブイン。

17:40 昆明着。渋滞高速、降りてから大変だ。丝绸之路(シルクロード)にてシルク製品の買物。

キノコのしゃぶしゃぶの夕食。

昆明を出発点にインドへ至る南のシルクロードは長安(西安)発の北のシルクロードより400年も古いそう。

21:00 ホテルへ向かう。1日のパレードの予行演習のためメインストリートが通行止め、迂回する。

ホテル(連雲賓館)に着くと、一昨年のドライバーだった王さんも会いに来た。

4月30日(日)

9:00 出発 買物。11時に戻る予定だが、渋滞で間に合いそうもない。緊急用のスピーカーで道をあけてもらって急ぐ。

12:10 文連主席李先生等と昼食会。

李主席は新平生まれで、思茅で勉強したというお医者様。今回訪れた地に縁の深い方である。

16:00 別宴会場にて雲南省舞蹈家協会との交流会。来日経験者が多数集まった(来日者80名のうち60名出席)昆明在住者のみならず二カ月かけて訪れた遠方からの人の姿もあった。

張先生の司会でなごやかな同窓会ムードの会は始まった。



故黛節子理事長の写真とともに記念撮影

プログラム

周先生挨拶	段先生挨拶
大野先生挨拶	劉金吾先生挨拶
李先生挨拶	出席者紹介
黒田節	津軽あいや節
ソーラン節	チベット族の踊り
聶さんの奥さんによるナシ族の踊り	
周先生の踊り	段先生の歌
輪踊り	おみやげ交換
記念写真	食事



思茅市・紅旗会堂であいさつする大野団長

19:55 商業ビルの劇場でミュージカル「花腰放歌」観劇。花腰イ族の歌と踊りで出演者のほとんどが10代から50代までの農民ということだったが、すばらしくまとまっていた。特に踊りが圧巻だった。

5月1日（月）

9:30 出発。

雲南大学人類学博物館。2003年に建てられた設備の整った博物館。雲南はじめ近隣地域の少数民族の資料、仮面、楽器、宗祭具が展示されていた。

現在、雲南省は各所に生態村(民俗村)ができ、パネルやビデオで紹介されている。25日に訪れた南碱民族文化生態村には海外から多数の援助があり、米フォード社を筆頭に黛民族舞踊文化財団も名を連ねていた。

10:40 翠湖公園散策。新緑が美しい。民芸品などお土産を見る。

昼食 荷風軒。スーパー。圓通寺。

ホテルに戻り休憩、荷物整理。



思茅歌舞団の踊り

17:30 集合。花園餐厅内。昆明で夕食。張先生とお嬢さんの招待。

近くのデパートで買物。途中大きな龍の電飾で飾られた通りがあり、車を降りて通りぬけてみることに。

22:30 ホテル

5月2日（火）

6:20 出発。

6:35 空港着。昆明国際空港は通りが空いていれば非常に速い。しかし近々郊外に新空港が開港の予定。チェックインカウンターに行ってみると乗るはずだったMU5731便はキャンセルされているとの事。急遽中国南方航空C23420便を手配してもらった。座席についてすぐ出発という。大騒ぎだった。

9:55 広州着。

チェックイン、昼食、買物。

15:55 JL0604。空港周辺の天候の関係で飛行制限がされており、機内で1時間以上待っての出発だったが、誰も文句も言わなかった。中国にしばらくいると待つことになるのかもしれない。

20:45 雨の成田空港着。

お疲れさまでした。



シャングリラ歌舞団（チベット族） 昆明にて

2007年世界舞踊祭に参加

2007年3月3日(土)、4日(日)

茨城大学教授国枝たか子先生主宰の「世界舞踊祭」が、今年も港区赤坂区民センターで開催された。この催しは世界各国の民族舞踊を中心に、出演団体はプロとアマチュアが混じった構成で幅広いジャンルの舞踊グループが出演した。

出演した各団体の演目は次のとおり

ギリシャ民族舞踊
ボリビアの音楽“チャランゴの響き”
ルーマニア民族舞踊
アルゼンチン・タンゴ
韓国舞踊
オリガ・サファイアによるバレエ作品集
イサドラ・ダンカン作品集
ヨーロッパの優雅な様式の舞踊
日本民族舞踊(黛民族舞踊団)
地唄舞「菊の露」
地唄舞「鉄輪」
マレーシア民族舞踊
15世紀イタリア宮廷舞踊
琉球舞踊
朝鮮舞踊
中国の舞踊



かつぽれ 黛 琉美

ダンス・インプロヴィゼーション
インド舞踊

当舞踊団の演目は次のとおり

伊予万才 (日本・愛媛県)
貫 花 (日本・沖縄県)
麦 屋 節 (日本・富山県)
会津磐梯山(日本・福島県)
かつぽれ (日本・東京都)
祝 い 舞 (日本・宮城県)

スタッフ

総合プロデュース	大野 晃
照 明 (エクサート松崎)	井上 正美
音 響 (サウンドクラフト)	小林 史
舞台監督 (ニケステージワークス)	八木 清市

製 作 世界舞踊祭実行委員会
委員長 国枝 たか子



麦屋節 平出圭尹子

第3回世界舞踊祭プログラム



伊予万才 五月女舞徳

3月4日 昼の部

- 1 ギリシャ民族舞踊
- 2 ボリビア音楽 福田大治ほか
- 3 ルーマニア民族舞踊 郷 成伸
- 4 アルゼンチン・タンゴ
- 5 韓国舞踊 金梅子・高野悦子他
- 6 オリガ・サファイアによるバレエ作品集
- 7 イサドラ・ダンカン作品集
- 8 ヨーロッパの優雅な様式の舞踊 聖徳大学
- 9 日本民族舞踊 黛民族舞踊団

3月4日 夜の部

- 1 地唄舞「菊の露」 花崎会
- 2 地唄舞「鉄輪」 吉村桂充
- 3 マレーシア民族舞踊 ムカル・ブダヤ舞踊団
- 4 15世紀イタリア宮廷舞踊 聖徳大学
- 5 朝鮮舞踊 趙 純美
- 6 ハンガリー民族舞踊
- 7 中国の舞踊 鳳仙功舞踊団
- 8 ダンス・イン・プロヴィンション 武蔵野美術大学
- 9 インド舞踊 インド文化庁派遣舞踊団



祝い舞 黛民族舞踊文化財団

ヒーヤイ踊り取材旅行

(1) 日 時

平成 18 年 7 月 15 日～16 日

(2) 参加者

黛琉美、黛莉香、黛真也、藤原明人
計 4 名

(3) 目 的

徳山古典芸能保存会は、平成 4 年に 1 度黛スタジオで御指導いただいたが、そのときのすばらしいヒーヤイ踊りをぜひもう 1 回改めて教えていただきたいと思い、又、来年の日中交流公演にでも踊れればと思って 7 月 15 日（土）13 時 59 分東京発。こだまで東京を出発。静岡で旧東海道線に乗って金谷で下車、大井川鉄道に乗り換え、美しい田園風景の徳山に 17 時 30 分に到着。長濱先生の出迎えをうけ久しぶりの再会に黛節子先生との思い出に花をさかせる。民宿「するがや」に案内され、そこで 19 時から徳山古典芸能保存会会長山下忠之先生はじめ踊り手も含めて 15 人もお集まり下さって、歓迎会をしていただいた。平成 4 年に黛節子先生が中国の人々を連れて徳山を訪れた時の VTR を見せていただきながらの楽しいお食事会をすませた。皆よろこんで迎えて下さった。

7 月 16 日（日）朝早く浅間神社に参詣し、神殿の千年杉を拝む。自然と頭が下がり、しばし敬虔な思いにひたる。それから徳山コミュニティーセンターに回る。

センターでヒーヤイ踊りの指導を受ける。なかなかむずかしい。



ヒーヤイ踊り保存会の皆さん

帰りに茶茗館でおいしいお茶をいただき、おみやげを求め、長濱先生に送られて徳山駅に着いた。

ヒーヤイ踊りの里、静岡県榛原郡川根本町徳山地区は南アルプス南部の山間にある戸数約 400 戸、人口 1300 人ほどの小さな集落だが、文化財が多く残されている。その一つは国指定重要無形民俗文化財「徳山盆踊」で 8 月 15 日の夜浅間神社の例祭にあわせて奉納される。

もう一つは静岡県指定無形民俗文化財「徳山の神楽」でこれは 10 月初旬の夜徳山神社の例祭にあわせて奉納されるという。

中世より徳山には土岐と称する豪族が居住していたが、南北朝時代に今川氏に敗れ、今川氏の支配を受けるようになった。今川氏は代々京都の公家と関係が深く、京都の文化人が徳山に集まり、文化都市として栄えていた。

かつては男が女装して踊ったものだが、古歌舞伎踊りの初期の形態を残している古風で、出雲阿国の綾子舞のもとともいわれている優雅な踊りである。唄の終わりにヒーヤイというはやし言葉がついているので、ヒーヤイ踊りという。



ヒーヤイ踊りのレッスン

民族文化の会

民族文化の会も、回を重ねるごとに民族舞踊や、多方面の先生方のお話が勉強になり、勉強するにあたって知識を得られる貴重な時をすごしています。

歌舞伎界の大御所で人間国宝の中村富十郎先生（5月17日）、坂田藤十郎先生（2月11日）をお招きした時は、歌舞伎界の知られざる数々のお教えを受け、お客様も多く集まって、楽しいひとときの会でした。

又、来日された尹紹亭先生（雲南大学教授・11月15日）からは、中国雲南省で雲南民族文化生態村の建設に携わり、民族文化保護の道を模索されているとお話を伺いました。我が国でも郷土芸能の振興や後継者の育成が論議されているなか、このお話がその参考になるのでは……という思いを強く抱きました。



民族文化の会 期日とテーマ・講師 2006年度

4月2日（日）	1 「王権と音楽」 東京音楽大学 助教授 豊永聡美	
	2 「ザ・ビートルズもうひとつのイギリス文化史」	
	学習院大学教授 湯沢 威	
5月17日（水）	特別講演会「人間国宝に聞く 歌舞伎の芸」	
	歌舞伎俳優 中村富十郎	諏訪先生、尹先生を囲んで 民族文化の会
6月21日（水）	1 「ヤマタノオロチ神話の形成」	学習院大学院博士課程終了 村山直子
	2 「現代日本の龍の図像」	コピーライター かとうさちこ
	3 「蛇信仰に表現された日本人の死生観」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
7月9日（日）	シンポジウム 「歌舞伎と浮世絵」	学習院講師 鏡味貴美子＋藤澤 茜＋武藤純子
	進行	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
9月14日（木）	1 「阿蘭陀文の謎—その後の調査から—」	近世異文化交流史研究 白石広子
	2 「ヨーロッパの政治思想と宗教」	学習院大学教授 森永毅彦
	3 「中国四川省トウチャ族の死者儀礼」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
10月12日（木）	1 「世界最古の人工ミイラとその社会環境—BC5000チリ北部海岸—」	文明史研究 下野 泉
	2 「グローバリゼーションとシビリゼーション」	文明研究家 播磨隆俊
	3 「映画にみる日本の家族の行方」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
11月15日（水）	1 「日本の開発経験を国際交流に」	国際協力銀行技術顧問・名古屋大学講師 鹿野和子
	2 「雲南民族文化生態村の建設—民族文化保護の道—」	雲南大学教授 尹 紹亭
	3 「天神信仰と牛—アジアの雷神と眷属神—」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
12月10日（日）	1 「ベールを脱いだ中国神話学」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
	2 「タロット占いと黙示録」	SRCjapan 理事長 クリス・アーンショー
	3 「論理パズル」	東海大学理学部教授 大矢建正
1月21日（日）	1 「「孝」の理念の展開」	東京大学院博士課程 宇野瑞木
	2 「「龍」の図像学」	コピーライター かとうさちこ
	3 「消えた誇り高き日本人」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
2月11日（日）	第4回上方和事研究会（人間国宝 坂田藤十郎を囲んで）	
	1 「初代坂田藤十郎の戒名と菩提寺」	京都造形芸術大学教授 田口章子
	2 「初代坂田藤十郎の絵画資料」	東海大学講師 藤澤 茜
	3 「元禄上方和事の演技の間合」	学習院大学名誉教授 諏訪春雄
3月4日（日）	1 『南総里見八犬伝』の時空	学習院大学大学院 芳賀さやか
	2 「言語地図から日本語を考える」	栄北高校国語教師 野口美智子
	3 『南総里見八犬伝』と神仙思想—役行者と八犬士—	学習院大学名誉教授 諏訪春雄



聶耳母子の像



黒田節 黛琉美 昆明市にて



大野団長と張亜錦先生



思茅にて 左より李曉偉氏、当財団黛莉香、阿卜氏、李慶氏



思茅地区の茶畑

財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No. 19

2007年5月17日発行

発行人 犬丸 直

編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F Tel 03-3583-3633

財団法人 黛民族舞踊文化財団

Fax 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO